

日本食肉加工情報

毎月1回発行

3

2024 MAR.

No.885

CONTENTS

●特集

食肉需給の動向について

●窓

第100回 NSK会 副会長 我満 大輔 氏
株式会社ニッピ コラーゲン事業部 次長 「ニッピにおける歩み」

●業界をめぐる動き

- ・令和5年度 JAS品質管理責任者等専門講習会開催
- ・支部だより ～関西支部だより～
- ・関係省庁からの情報提供などについて(会員組合員宛配信情報)
- ・食肉科研(KAKEN) コラム # 102

●海外情報

メキシコ 24年の豚肉生産量、輸出量ともに前年をわずかに上回る見込み



SPECIAL
EDITION

特集

食肉需給の動向について

下村 義雄 農林水産省畜産局 食肉鶏卵課食肉需給班 需給係長

1. 食肉需給の概要

(1) 食肉消費量の推移

我が国における1人当たりの食肉消費量は、昭和35年以降、日本人の食事内容が西洋化したことなどにより、平成10年頃まで大きく増加した。その後は、食生活の西洋化の定着、少子高齢化の進展等が相まって、おおむね横ばいで推移してきたが、近年、焼肉や牛丼、ハンバーガー等の外食を中心に食肉全体の消費量は一層拡大しており、令和4年度には、牛肉6.2kg、豚肉13.1kg、鶏肉14.6kgとなり、合計では過去最高を更新して33.9kgとなった。

特に豚肉は、価格が牛肉と比べて安価であることに加え、

調理や加工向けの用途が豊富であることなどから、1人当たりの消費量は牛肉・鶏肉と比べて高い水準で推移してきた。平成に入るとは、豚肉消費量の伸びは横ばいとなったものの、平成10年代には、国内外での牛海綿状脳症(BSE)の発生や、タイ・中国における高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、牛肉・鶏肉からの代替需要が生じ、再び増加傾向となった。しかしながら、その後はデフレ進行等に伴い、消費者の節約志向や健康志向の高まりから鶏肉の消費が大きく伸び、平成25年度には豚肉の消費量を抜いて、現在まで鶏肉の消費量が最も多くなっている。

続きは定期購読で！

定期購読のお問い合わせ

一般社団法人日本食肉加工協会 日本ハム・ソーセージ工業協同組合 総務部

TEL : 03-3444-1211 FAX : 03-3441-8287 E-mail : ask@hamukumi.or.jp